
一つの夢の罪過

螺威

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一つの夢の罪過

【コード】

N0920C

【作者名】

螺威

【あらすじ】

未熟な少年の夢と彼女の罪の話……暗いです（T・T）

ねえ、シスター？と後ろから耳に馴染んだ男の子の声。

振り向かずに彼女は声だけを男の子に投げた。

「なあに？」

ベットに登り、すぐ手前にある窓から空を仰ぎながら黒髪の少年も、シスターである彼女に習い声だけで問うた。

「人間でも空に行ける？飛べる？」

形は問い。

けれどもそれはシスターに諭しているような口調。

ここ最近微熱がちな少年の破れた服を繕いながら彼女は少年に続きを促した。

「何故そんなこと聞くのかな？」

しかし少年はそれに一度、ほんの僅かな瞬間だけ真顔になり、すぐに残念、とでも言いたげに憊く笑う。

その表情は誰も見ることがない。

若干声を柔くして少年は話す。

「羽根がないと飛べないよ。人間が動物の言葉を理解しない。しよ
うとしない。それと同じ。」

だから俺は孤児院に来たんだよ、そう自嘲的に笑ったのを気配で感じ、そこで彼女は初めて後ろの少年の方を振り向く。

少年は窓の棧の上。

笑顔を空に向けて、今度はその笑顔を後ろのシスターに向けた。

初めて視線が合った。

「悪魔には羽根があるんだよシスター。」

酷く穏やかに少年は続ける。

「天使にはなれないよ。だからお母さんは俺をここにいれだんだ。」

酷く、酷く愛おしみながら。

何も出来ないシスターを見ながら、目を細める。

「ねえ、シスター？」

穏やかで綺麗な笑顔。

彼女はこんな顔を見たことがない。

「悪魔になったら、悪戯しに来るね？」

「……………」

「でも悪魔になるのには記憶なくさなきゃらしいから忘れるかも。」

そうだったらラッキーだねシスター」

「……………」

そこまで話し、尚何も出来ない若い新米シスターに世界で一番残酷な優しい笑みを少年は見せ、左手を軽く降って見せた。

酷く優しい、泣き出しそうな笑みを遺して。

「行ってきます、シスター」

それは、少年の未熟さと彼女の罪の話し。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0920c/>

一つの夢の罪過

2010年10月15日21時45分発行